

**令和5年度**  
**奈良県立医科大学附属病院**  
**歯科医師卒後臨床研修プログラム**

**奈良県立医科大学附属病院**

# 目 次

I 歯科医師卒後臨床研修プログラム概要	3
II 歯科医師卒後臨床研修カリキュラム	9
III 歯科医師卒後臨床研修プログラム 指導歯科医評価票A	12
IV 歯科医師卒後臨床研修プログラム 看護師評価票	17
V 歯科医師卒後臨床研修プログラム 歯科衛生士・歯科技工士評価票	18
VI 指導歯科医評価票A.看護師評価票.歯科衛生士・歯科技工士評価票 評価基準	19
VII 歯科医師卒後臨床研修プログラム 指導歯科医評価票B	23
VIII 歯科医師卒後臨床研修プログラム 指導歯科医評価票B 評価基準	25

## 【I】奈良県立医科大学附属病院における歯科医師臨床研修の概要

### (1)はじめに

我が国では、超少子高齢化がすさまじい速さで進んでおり、2025年には、団塊の世代が後期高齢者である75歳を迎え、2040年ごろをピークに高齢者人口が減少していくと予想されている。その急速な人口動態の変化に対応すべく、各地で「地域包括ケアシステム」の構築が進められており、外来診療を中心とした医療提供に加えて、医師や薬剤師、看護師、介護支援専門職等の他職種との連携による在宅も含めた歯科医療の提供が求められている。

当院では、前述の社会の変化に対応できるよう、医学部附属病院歯科口腔外科として、歯科疾患に対する外科手術等の歯科診療技術の習得に加え、各診療科・多職種との連携により、プロフェッショナルリズムおよび歯科医師として必要となる倫理感や安全管理などの資質・能力の育成も同時に行うことで、当院臨床研修修了後に多様なキャリアパスを描くことが可能となるプログラムを提供する。

### (2)当該歯科医師卒後臨床研修プログラムの特色

当院は奈良県内で唯一の公的基幹施設としての役割を担いながら、多くの口腔外科専門医、または口腔外科指導医を有する日本口腔外科学会認定研修施設です。口腔がん、口腔顎顔面外傷、唇顎口蓋裂、顎関節疾患、口腔感染症、口腔顎顔面インプラント、血液疾患・HIV感染者の口腔管理、口腔乾燥症・口腔粘膜疾患、口腔顎顔面再建、顎変形症・顎骨延長、歯顎矯正・顎口腔機能などの各種口腔疾患を中心とした口腔顎顔面全般にわたる多種多様な疾患の治療に積極的に取り組んでいます。

また、口腔顎顔面領域の特殊性と重要性を鑑み、その機能と形態の温存ならびに再建を重視し、QOLを最大限に考慮した良好な社会復帰を目指した総合的な診療を行なっています。さらに、医学部附属病院としての特性を活かし、各診療科との連携により全身管理の知識・技術の習得に加え、看護師、歯科衛生士、歯科技工士等の豊富な医療スタッフとの協働により、豊かなコミュニケーション能力の習得も目指しています。

以上から、当院研修プログラムは、質、量ともに充実したものとなっています。

### (3)基本理念

「患者と心が通い合う人間味あふれる医療人」の基礎をかん養し、安全な医療を提供でき、生涯教育に必要となる「自ら考え問題を解決できる」能力を有した歯科医師を養成する。

### (4)基本方針

- ・地域の中核病院として、多くの症例や手技を経験し、基本的な診療能力を習得する。
- ・特定機能病院として、高度先進医療を経験し、最先端の医療知識を学ぶ。
- ・大学病院として、科学的根拠に基づいた医療を実践する態度を身に付ける。
- ・多職種との連携により、豊かな人間性を醸成する。
- ・同僚、後輩と共に研鑽し、生涯学び続ける姿勢を獲得する。

### (5)臨床研修施設と研修を行う期間

- ・臨床研修施設：奈良県立医科大学附属病院
- ・研修期間：1年間(2023年4月1日～2024年3月31日)

### (6)募集定員

- ・募集定員：10名

(7) 研修歯科医の募集及び採用の方法

- ・募集方法: 公募
- ・選考方法: 面談
- ・募集の時期: 2022年5月
- ・選考の時期: 2022年7月
- ・マッチング利用の有無: 有
- ・研修開始時期: 2023年4月

(8) 研修歯科医の処遇

- ・常勤・非常勤の別: 常勤
- ・研修手当: 基本手当(時給換算)1,599円/時間
- ・その他手当: 賞与 0円/年
- ・勤務時間: 基本的な勤務時間 8:30~17:15
- ・休暇: 基本的な休暇あり その他夏季休暇あり
- ・時間外勤務: なし
- ・当直: なし
- ・研修歯科医の宿舎: なし
- ・研修歯科医のための施設内の部屋: あり
- ・社会保険: 公的医療保険(協会けんぽ)  
公的年金保険(厚生年金)
- ・労働保険: 労働者災害補償保険法の適用あり  
国家・地方公務員災害補償法の適用なし
- ・雇用保険: あり
- ・健康管理: 健康診断 1回/年
- ・歯科医師賠償責任保険の扱い: 医療機関において加入する  
個人加入強制
- ・外部の研修活動: 学会、研究会等への参加可  
学会、研究会等への参加費用支給なし

## (9) 研修指導体制

指導歯科医の指導監督の下、上級歯科医による屋根瓦方式を基本とする。

### 1. プログラム責任者: 歯科口腔外科部長

氏名: 桐田 忠昭

所属学会: International Congress on Oral Cancer・International Association of Oral and Maxillofacial Surgeons・Asian Association of Oral and Maxillofacial Surgeons・日本口腔外科学会・日本口腔外科学会・日本口腔腫瘍学会・日本癌学会・日本癌治療学会・日本口腔内科学会・日本歯科麻酔学会・日本頭頸部癌学会・日本口腔インプラント学会・日本顎関節学会・日本有病者歯科医療学会・日本口腔顎顔面外傷学会・日本歯科薬物療法学会・日本顎顔面インプラント学会・日本口腔診断学会・日本再生医療学会・日本口腔ケア学会・日本障害者歯科学会・日本矯正歯科医学会・日本スポーツ歯科学会・日本歯科医療管理学会・日本口蓋裂学会・日本形成外科学会

認定資格: 日本口腔外科学会専門医・指導医、日本歯科麻酔学会認定医、インфекションコントロールドクター認定医 日本顎顔面インプラント学会指導医、日本小児口腔外科学会指導医、日本癌治療認定医機構がん治療認定医(歯科口腔外科)、日本癌治療認定医機構暫定教育医、日本口腔腫瘍学会暫定口腔癌指導医、日本有病者歯科医療学会認定医・指導医、歯科医師臨床研修指導歯科医

学会の役職: 日本口腔腫瘍学会理事長、日本口腔外科学会常任理事、日本口腔科学会評議員、日本頭頸部癌学会理事、日本癌治療学会代議員、日本顎顔面外傷学会理事、日本有病者歯科医療学会評議員、日本顎顔面インプラント学会評議員、日本口腔内科学会評議員

### 2. プログラム副責任者: 歯科口腔外科医局長

氏名: 堀田 聡

所属学会: 日本口腔外科学会・日本顎顔面インプラント学会・日本口腔インプラント学会・日本口腔顎顔面外傷学会・日本顎変形症学会・日本障害者歯科学会・日本口腔科学会・日本有病者歯科学会・日本臨床バイオメカニクス学会・日本ACLS協会・日本口腔感染症学会

認定資格: 日本口腔外科学会専門医・指導医、日本顎顔面インプラント学会専門医、日本口腔科学会認定医・指導医、日本障害者歯科学会認定医、日本ACLS協会BLSインストラクター、ICD協議会認定インフェクションコントロールドクター、歯科医師臨床研修指導歯科医

### 3. 指導歯科医

氏名: 桐田 忠昭

所属学会: International Congress on Oral Cancer・International Association of Oral and Maxillofacial Surgeons・Asian Association of Oral and Maxillofacial Surgeons・日本口腔外科学会・日本口腔外科学会・日本口腔腫瘍学会・日本癌学会・日本癌治療学会・日本口腔内科学会・日本歯科麻酔学会・日本頭頸部癌学会・日本口腔インプラント学会・日本顎関節学会・日本有病者歯科医療学会・日本口腔顎顔面外傷学会・日本歯科薬物療法学会・日本顎顔面インプラント学会・日本口腔診断学会・日本再生医療学会・日本口腔ケア学会・日本障害者歯科学会・日本矯正歯科医学会・日本スポーツ歯科学会・日本歯科医療管理学会・日本口蓋裂学会・日本形成外科学会

認定資格: 日本口腔外科学会専門医・指導医、日本歯科麻酔学会認定医、インフェクションコントロールドクター認定医 日本顎顔面インプラント学会指導医、日本小児口腔外科学会指導医、日本癌治療認定医機構がん治療認定医(歯科口腔外科)、日本癌治療認定医機構暫定教育医、日本口腔腫瘍学会暫定口腔癌指導医、日本有病者歯科医療学会認定医・指導医、歯科医師臨床研修指導歯科医

氏 名: 山川 延宏

所属学会: 日本口腔外科学会・日本口腔科学会・日本口腔腫瘍学会、日本癌学会・日本癌治療学会・日本頭頸部癌学会・日本放射線影響学会・日本口腔診断学会・日本有病者歯科学会・日本感染症学会

認定資格: 日本口腔外科学会専門医・指導医、国際口腔顎顔面外科専門医 (Fellow of the International Board for the Certification of Specialists in Oral and Maxillofacial Surgery)、日本口腔腫瘍学会口腔がん専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、インフェクションコントロールドクター、歯科医師臨床研修指導歯科医

氏 名: 柳生 貴裕

所属学会: International Association of Oral and Maxillofacial Surgeons・Asian Association of Oral and Maxillofacial Surgeons・日本口腔外科学会・日本再生医療学会・日本病理学会・日本臨床口腔病理学会・日本口腔科学会・日本口腔腫瘍学会・日本癌治療学会・日本口腔診断学会・日本頭頸部癌学会・日本口腔感染症学会・日本化学療法学会

認定資格: 日本口腔外科学会専門医、国際口腔顎顔面外科専門医 (Fellow of the International Board for the Certification of Specialists in Oral and Maxillofacial Surgery)、日本病理学会口腔病理専門医・口腔病理専門医研修指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医(歯科口腔外科)、日本再生医療学会再生医療認定医、歯科医師臨床研修指導歯科医、死体解剖資格

氏 名: 堀田 聡

所属学会: 日本口腔外科学会・日本顎顔面インプラント学会・日本口腔インプラント学会・日本口腔顎顔面外傷学会・日本顎変形症学会・日本障害者歯科学会・日本口腔科学会・日本有病者歯科学会・日本臨床バイオメカニクス学会・日本ACLS協会・日本口腔感染症学会

認定資格: 日本口腔外科学会専門医・指導医、日本顎顔面インプラント学会専門医、日本口腔科学会認定医・指導医、日本障害者歯科学会認定医、日本ACLS協会BLSインストラクター、ICD協議会認定インフェクションコントロールドクター、歯科医師臨床研修指導歯科医

氏 名: 川上 正良

所属学会: International Association for Dental Research・日本矯正歯科学会・日本口蓋裂学会・日本口腔外科学会・日本顎変形症学会・日本小児口腔外科学会・近畿東海矯正歯科学会・日本障害者歯科学会・日本老年歯科医学会・日本顎関節学会・日本有病者歯科医療学会

認定資格: 日本矯正歯科学会 認定医・指導医、歯科医師臨床研修指導歯科医

氏 名: 上田 順宏

所属学会: 日本口腔外科学会・日本口腔科学会・日本癌治療学会・日本口腔腫瘍学会・日本頭頸部癌学会・日本歯科麻酔学会・日本顎関節学会・日本口腔診断学会・日本顎顔面インプラント学会・日本口腔インプラント学会・日本スポーツ歯科医学会・日本臨床バイオメカニクス学会・日本口腔ケア学会・日本化学療法学会

認定資格: 日本口腔外科学会認定医・専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医(歯科口腔外科)・日本顎関節学会専門医、日本スポーツ歯科医学会認定医、日本スポーツ歯科医学会認定マウスガードテクニカルインストラクター、歯科医師臨床研修指導歯科医、日本体育協会公認スポーツデンティスト

氏 名: 仲川 洋介

所属学会: 日本口腔外科学会・日本口腔科学会・日本癌学会・日本癌治療学会・日本放射線影響学会・日本歯科放射線学会・日本口腔診断学会・日本顎顔面インプラント学会・国際癌治療増感研究協会・日本ハイパーサーミア学会

認定資格: 日本口腔外科学会認定医、歯科医師臨床研修指導歯科医

氏 名:中村 泰士

所属学会:日本口腔外科学会、日本口腔腫瘍学会、日本有病者歯科医療学会、日本癌治療学会

認定資格:日本口腔外科学会専門医、日本有病者歯科医療学会認定医・専門医

氏 名:中上 佳寿彦

所属学会:日本口腔外科学会、日本口腔顎顔面外傷学会、日本顎顔面インプラント学会、日本有病者歯科医療学会、口腔インプラント学会

認定資格:日本口腔外科学会認定医

氏 名:中山 洋平

所属学会:日本口腔外科学会、日本口腔科学会、日本口腔腫瘍学会、日本顎変形症学会

認定資格:日本口腔外科学会専門医、日本口腔科学会認定医

氏 名:今田 光彦

所属学会:日本口腔外科学会、日本口腔科学会、日本再生医療学会、日本口腔腫瘍学会、日本口腔内科学会  
顎顔面インプラント学会、顎顔面補綴学会、日本口腔インプラント学会

認定資格:日本口腔外科学会認定医、日本口腔科学会認定医

#### 4. 奈良県立医科大学附属病院臨床研修管理委員会を構成し、歯科医師臨床研修プログラムの実施および運営

##### (10) 研修歯科医の評価に対する項目

修了判定を行う項目: 指導歯科医評価票A、歯科衛生士・歯科技工士評価票、看護師評価票、指導歯科医評価票B(症

修了判定を行う基準: 指導歯科医評価票Aの評価、歯科衛生士・歯科技工士評価票の評価、看護師評価票の評価  
が4段階の3以上、指導歯科医評価票Bの症例数の達成

(Ⅱ) 奈良県立医科大学附属病院歯科医師卒後臨床研修・基本カリキュラム

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
<b>A. 歯科医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)</b>					
社会的使命と公衆衛生への寄与					
社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める	日常診療		指導歯科医により、「指導歯科医評価票A」を用いた観察評価を行い、研修期間全体で3以上の評価をもって修了とする。なお、評価は数か月ごとに研修手帳をもとに面談等にて形成的評価をし、適宜フィードバックを行う。		
利他的な態度					
患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先するとともにQOLに配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する	日常診療		指導歯科医により、「指導歯科医評価票A」を用いた観察評価を行い、研修期間全体で3以上の評価をもって修了とする。なお、評価は数か月ごとに研修手帳をもとに面談等にて形成的評価をし、適宜フィードバックを行う。		
人間性の尊重					
患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する	日常診療		指導歯科医により、「指導歯科医評価票A」を用いた観察評価を行い、研修期間全体で3以上の評価をもって修了とする。なお、評価は数か月ごとに研修手帳をもとに面談等にて形成的評価をし、適宜フィードバックを行う。		
自らを高める姿勢					
自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める	日常診療		指導歯科医により、「指導歯科医評価票A」を用いた観察評価を行い、研修期間全体で3以上の評価をもって修了とする。なお、評価は数か月ごとに研修手帳をもとに面談等にて形成的評価をし、適宜フィードバックを行う。		
<b>B. 資質・能力</b>					
1. 医学・医療における倫理性					
診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する					
【行動目標】					
①人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する	日常診療		指導歯科医により、「指導歯科医評価票A」を用いた観察評価を行い、研修期間全体で3以上の評価をもって修了とする。なお、評価は数か月ごとに研修手帳をもとに面談等にて形成的評価をし、適宜フィードバックを行う。		
②患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす					
③倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する					
④利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する					
⑤診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める					
2. 歯科医療の質と安全の管理					
患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する					
【行動目標】					
①医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める	日常診療		指導歯科医により、「指導歯科医評価票A」を用いた観察評価を行い、研修期間全体で3以上の評価をもって修了とする。なお、評価は数か月ごとに研修手帳をもとに面談等にて形成的評価をし、適宜フィードバックを行う。		
②日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する					
③医療事故等の予防と事後の対応を行う					
④歯科診療の特性を踏まえた院内感染対策について理解し、実践する					
⑤医療従事者の健康管理(予防接種や針刺し事故への対応を含む。)を理解し、自らの健康管理に努める					
3. 医学知識と問題対応能力					
最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る					
【行動目標】					
①頻度の高い疾患について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う	日常診療		指導歯科医により、「指導歯科医評価票A」を用いた観察評価を行い、研修期間全体で3以上の評価をもって修了とする。なお、評価は数か月ごとに研修手帳をもとに面談等にて形成的評価をし、適宜フィードバックを行う。		
②患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う					
③保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する					
④高度な専門医療を要する場合には適切に連携する					
4. 診療技能と患者ケア					
臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・移行に配慮した診察を行う					
【行動目標】					
①患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する	日常診療		指導歯科医により、「指導歯科医評価票A」を用いた観察評価を行い、研修期間全体で3以上の評価をもって修了とする。なお、評価は数か月ごとに研修手帳をもとに面談等にて形成的評価をし、適宜フィードバックを行う。		
②診察・検査の結果を踏まえ、口腔単位の診療計画を作成する					
③患者の状態やライフステージに合わせた、最適な治療を安全に実施する					
④診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する					

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
<b>5. コミュニケーション能力</b>					
患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く					
【行動目標】					
①適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する	日常診療				指導歯科医が「指導歯科医評価票A」により、看護師が「看護師評価票」により、歯科衛生士が「歯科衛生士・技工士評価票」によりそれぞれ観察評価を行い、研修期間全体で各々3以上の評価をもって修了とする。なお、評価は数か月ごとに研修手帳をもとに面談等にて形成的評価をし、適宜フィードバックを行う。
②患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する					
③患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する					
<b>6. チーム医療の実践</b>					
医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る					
【行動目標】					
①歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る	日常診療				指導歯科医が「指導歯科医評価票A」により、歯科衛生士および歯科技工士が「歯科衛生士・技工士評価票」によりそれぞれ観察評価を行い、研修期間全体で各々3以上の評価をもって修了とする。なお、評価は数か月ごとに研修手帳をもとに面談等にて形成的評価をし、適宜フィードバックを行う。
②多職種が連携し、チーム医療を提供するにあたり、医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する					
③医療チームにおいて各構成員と情報を共有し、連携を図る					
<b>7. 社会における歯科医療の実践</b>					
医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会に貢献する					
【行動目標】					
①健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する	歯科医師会主催の学会・研修会への参加				指導歯科医により、「指導歯科医評価票A」を用いた観察評価を行い、研修期間全体で3以上の評価をもって修了とする。なお、評価は数か月ごとに研修手帳をもとに面談等にて形成的評価をし、適宜フィードバックを行う。
②地域の健康問題やニーズ把握など公衆衛生活動を理解する					
③予防医療・保健・健康増進に努める					
④地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する					
⑤災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する					
<b>8. 科学的探究心</b>					
医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する					
【行動目標】					
①医療上の疑問点に対応する能力を身に付ける	症例カンファレンス、論文抄読会				指導歯科医により、「指導歯科医評価票A」を用いた観察評価を行い、研修期間全体で3以上の評価をもって修了とする。なお、評価は数か月ごとに研修手帳をもとに面談等にて形成的評価をし、適宜フィードバックを行う。
②科学的探究方法を理解し、活用する					
③臨床研究や治験の意義を理解する					
<b>9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢</b>					
医療の質の向上のために省察し、他の歯科医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける					
【行動目標】					
①急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める	日常診療				指導歯科医により、「指導歯科医評価票A」を用いた観察評価を行い、研修期間全体で3以上の評価をもって修了とする。なお、評価は数か月ごとに研修手帳をもとに面談等にて形成的評価をし、適宜フィードバックを行う。
②同僚、後輩、歯科医師以外の医療職と互いに教え、学びあう					
③国内外の政策や医学及び医療の最新動向(薬剤耐性菌等を含む。)を把握する					
<b>C. 基本的診療業務</b>					
<b>1. 基本的診療能力等</b>					
<b>(1) 基本的診察・検査・診断・診療計画</b>					
①患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する	問診	30		指導歯科医・上級歯科医の指導の下、問診を行う。	1日の各患者ごとに、診療に関する業務を経験した場合に、1症例として数える(見学を含む)
②全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する	診察				
③診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する	検査				
④病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う	治療計画・実践				
⑤診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する					
⑥必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する					
必要な症例数を経験していること。(評価票B)					

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
<b>(2) 基本的臨床技能等</b>					
① 歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する	口腔保健指導、スクリーニング	20	指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う。	1日の各患者ごとに、診療に関する業務を経験した場合に、1症例として数える(見学を含む)	必要な症例数を経験していること。(評価票B)
② 一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する a. 歯の硬組織疾患 b. 歯髄疾患 c. 歯周病 d. 口腔外科疾患 e. 歯質と歯の欠損 f. 口腔機能の発達不全、口腔機能の低下	a) う蝕のコンポジットレジン修復、インレー修復 4例、b) 抜髄、感染根管治療 4例、c) 歯周基本治療 8例、d) 普通抜歯、埋伏歯抜歯 10例、e) 義歯製作、ブリッジ製作 2例、f) 小児の口腔機能発達不全治療、高齢者の嚥下機能訓練 2例	30			
③ 基本的な応急処置を実践する	同左	3			
④ 歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する	同左	20			
⑤ 診察に関する記録や文書(診療録、処方せん、歯科技工指示書等)を作成する	同左	20			
⑥ 医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する	同左	5			
<b>(3) 患者管理</b>					
① 歯科診療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する	同左	20	指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う。	1日の各患者ごとに、診療に関する業務を経験した場合に、1症例として数える(見学を含む)	必要な症例数を経験していること。(評価票B)
② 患者の医療情報について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する	同左	10			
③ 全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う	同左	30			
④ 歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する	同左	1			
⑤ 入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する	病棟カンファレンス・症例検討会	5	カンファレンス等に参加し、指導歯科医・上級歯科医とディスカッションを行う	参加した場合を1症例として数える。	
<b>(4) 患者の状態に応じた歯科医療の提供</b>					
① 妊産期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する	同左	10	指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う。	1日の各患者ごとに、診療に関する業務を経験した場合に、1症例として数える(見学を含む)	必要な症例数を経験していること。(評価票B)
② 各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する	同左	10			
<b>2. 歯科医療に関連する連携と制度の理解等</b>					
<b>(1) 歯科専門職間の連携</b>					
① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る	日常診療	指導歯科医が「指導歯科医評価票」により、歯科衛生士および歯科技工士が「歯科衛生士・技工士評価票」によりそれぞれ観察評価を行い、研修期間全体で各々3以上の評価をもって修了とする。なお、評価は数か月ごとに研修手帳をもとに面談等にて形成的評価をし、適宜フィードバックを行う。			
② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る					
③ 多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する					
<b>(2) 多職種連携、地域医療</b>					
① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する	歯科医師会主催の学会・研修会への参加	指導歯科医により、「指導歯科医評価票A」を用いた観察評価を行い、研修期間全体で3以上の評価をもって修了とする。なお、評価は数か月ごとに研修手帳をもとに面談等にて形成的評価をし、適宜フィードバックを行う。			
② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する					
③ がん患者等の周術期等口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する	他職種とのカンファレンス・研修会	5	他職種が参加するカンファレンスおよび研修会等に参加し、他職種とディスカッションを行う。	参加した場合を1症例として数える。	必要な症例数を経験していること。(評価票B)
④ 歯科専門職が関与する多職種チーム(例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等)について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する	他職種とのカンファレンス・研修会				
<b>(3) 地域保健</b>					
① 地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する	歯科医師会主催の学会・研修会への参加	指導歯科医により、「指導歯科医評価票A」を用いた観察評価を行い、研修期間全体で3以上の評価をもって修了とする。なお、評価は数か月ごとに研修手帳をもとに面談等にて形成的評価をし、適宜フィードバックを行う。			
② 保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する					
<b>(4) 歯科医療提供に関連する制度の理解</b>					
① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する	歯科医師会主催の学会・研修会への参加	指導歯科医により、「指導歯科医評価票A」を用いた観察評価を行い、研修期間全体で3以上の評価をもって修了とする。なお、評価は数か月ごとに研修手帳をもとに面談等にて形成的評価をし、適宜フィードバックを行う。			
② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する					
③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する					

# 奈良県立医科大学附属病院歯科医師卒後臨床研修プログラム 指導歯科医評価票A

1:期待を大きく下回る 2:期待を下回る 3:期待通り 4:期待を大きく上回る

A. 歯科医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)					
社会的使命と公衆衛生への寄与	1(※)	2	3	4	観察機会なし
社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める	<input type="checkbox"/>				
利他的な態度	1(※)	2	3	4	観察機会なし
患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先するとともにQOLに配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する	<input type="checkbox"/>				
人間性の尊重	1(※)	2	3	4	観察機会なし
患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する	<input type="checkbox"/>				
自らを高める姿勢	1(※)	2	3	4	観察機会なし
自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める	<input type="checkbox"/>				
コメント:印象に残るエピソードなど(※)レベルが「期待を大きく下回る」の場合は必ず記入をお願いします。					
評価基準は別表のとおり					
B. 資質・能力					
1. 医学・医療における倫理性	1(※)	2	3	4	観察機会なし
①人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する	<input type="checkbox"/>				
②患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす	<input type="checkbox"/>				
③倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する	<input type="checkbox"/>				
④利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する	<input type="checkbox"/>				
⑤診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める	<input type="checkbox"/>				
コメント:印象に残るエピソードなど(※)レベルが1の場合は必ず記入をお願いします。					
2. 歯科医療の質と安全の管理	1(※)	2	3	4	観察機会なし
①医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める	<input type="checkbox"/>				
②日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する	<input type="checkbox"/>				
③医療事故等の予防と事後の対応を行う	<input type="checkbox"/>				
④歯科診療の特性を踏まえた院内感染対策について理解し、実践する	<input type="checkbox"/>				
⑤医療従事者の健康管理(予防接種や針刺し事故への対応を含む。)を理解し、自らの健康管理に努める	<input type="checkbox"/>				
コメント:印象に残るエピソードなど(※)レベルが1の場合は必ず記入をお願いします。					

3. 医学知識と問題対応能力	1(※)	2	3	4	観察機会なし
①頻度の高い疾患について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う	<input type="checkbox"/>				
②患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う	<input type="checkbox"/>				
③保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する	<input type="checkbox"/>				
④高度な専門医療を要する場合には適切に連携する	<input type="checkbox"/>				
コメント:印象に残るエピソードなど(※)レベルが1の場合は必ず記入をお願いします。					
4. 診療技能と患者ケア	1(※)	2	3	4	観察機会なし
①患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する	<input type="checkbox"/>				
②診察・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する	<input type="checkbox"/>				
③患者の状態やライフステージに合わせた、最適な治療を安全に実施する	<input type="checkbox"/>				
④診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する	<input type="checkbox"/>				
コメント:印象に残るエピソードなど(※)レベルが1の場合は必ず記入をお願いします。					
5. コミュニケーション能力	1(※)	2	3	4	観察機会なし
①適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する	<input type="checkbox"/>				
②患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する	<input type="checkbox"/>				
③患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する	<input type="checkbox"/>				
コメント:印象に残るエピソードなど(※)レベルが1の場合は必ず記入をお願いします。					
6. チーム医療の実践	1(※)	2	3	4	観察機会なし
①歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る	<input type="checkbox"/>				
②多職種が連携し、チーム医療を提供するにあたり、医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する	<input type="checkbox"/>				
③医療チームにおいて各構成員と情報を共有し、連携を図る	<input type="checkbox"/>				
コメント:印象に残るエピソードなど(※)レベルが1の場合は必ず記入をお願いします。					

7. 社会における歯科医療の実践	1(※)	2	3	4	観察機会なし
①健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する	<input type="checkbox"/>				
②地域の健康問題やニーズ把握など公衆衛生活動を理解する	<input type="checkbox"/>				
③予防医療・保健・健康増進に努める	<input type="checkbox"/>				
④地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する	<input type="checkbox"/>				
⑤災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する	<input type="checkbox"/>				

コメント:印象に残るエピソードなど(※)レベルが1の場合は必ず記入をお願いします。

8. 科学的探究心	1(※)	2	3	4	観察機会なし
①医療上の疑問点に対応する能力を身に付ける	<input type="checkbox"/>				
②科学的探究方法を理解し、活用する	<input type="checkbox"/>				
③臨床研究や治験の意義を理解する	<input type="checkbox"/>				

コメント:印象に残るエピソードなど(※)レベルが1の場合は必ず記入をお願いします。

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢	1(※)	2	3	4	観察機会なし
①急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める	<input type="checkbox"/>				
②同僚、後輩、歯科医師以外の医療職と互いに教え、学びあう	<input type="checkbox"/>				
③国内外の政策や医学及び医療の最新動向(薬剤耐性菌等を含む。)を把握する	<input type="checkbox"/>				

コメント:印象に残るエピソードなど(※)レベルが1の場合は必ず記入をお願いします。

評価基準は別表のとおり

C. 基本的診療業務					
2. 歯科医療に関連する連携と制度の理解等					
(1) 歯科専門職間の連携	1(※)	2	3	4	観察機会なし
①歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る	<input type="checkbox"/>				
②歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る	<input type="checkbox"/>				
③多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する	<input type="checkbox"/>				

コメント:印象に残るエピソードなど(※)レベルが1の場合は必ず記入をお願いします。

(2) 多職種連携、地域医療	1(※)	2	3	4	観察機会なし
①地域包括ケアシステムについて理解し、説明する	<input type="checkbox"/>				
②地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する	<input type="checkbox"/>				
コメント:印象に残るエピソードなど(※)レベルが1の場合は必ず記入をお願いします。					
(3) 地域保健	1(※)	2	3	4	観察機会なし
①地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する	<input type="checkbox"/>				
②保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する	<input type="checkbox"/>				
コメント:印象に残るエピソードなど(※)レベルが1の場合は必ず記入をお願いします。					
(4) 歯科医療提供に関連する制度の理解	1(※)	2	3	4	観察機会なし
①医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する	<input type="checkbox"/>				
②医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する	<input type="checkbox"/>				
③介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する	<input type="checkbox"/>				
コメント:印象に残るエピソードなど(※)レベルが1の場合は必ず記入をお願いします。					

## 奈良県立医科大学附属病院歯科医師卒後臨床研修プログラム 看護師評価票

1:期待を大きく下回る 2:期待を下回る 3:期待通り 4:期待を大きく上回る

B. 資質・能力					
5. コミュニケーション能力	1(※)	2	3	4	観察機会なし
①適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する	<input type="checkbox"/>				
②患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する	<input type="checkbox"/>				
③患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する	<input type="checkbox"/>				
コメント: 印象に残るエピソードなど(※)レベルが1の場合は必ず記入をお願いします。					

**奈良県立医科大学附属病院歯科医師卒後臨床研修プログラム  
歯科衛生士・歯科技工士評価票**

1:期待を大きく下回る 2:期待を下回る 3:期待通り 4:期待を大きく上回る

B. 資質・能力					
5. コミュニケーション能力	1(※)	2	3	4	観察機会なし
①適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する	<input type="checkbox"/>				
②患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する	<input type="checkbox"/>				
③患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する	<input type="checkbox"/>				
コメント:印象に残るエピソードなど(※)レベルが1の場合は必ず記入をお願いします。					
6. チーム医療の実践	1(※)	2	3	4	観察機会なし
①歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る	<input type="checkbox"/>				
②多職種が連携し、チーム医療を提供するにあたり、医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する	<input type="checkbox"/>				
③医療チームにおいて各構成員と情報を共有し、連携を図る	<input type="checkbox"/>				
コメント:印象に残るエピソードなど(※)レベルが1の場合は必ず記入をお願いします。					
C. 基本的診療業務					
2. 歯科医療に関連する連携と制度の理解等					
(1) 歯科専門職間の連携	1(※)	2	3	4	観察機会なし
①歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る	<input type="checkbox"/>				
②歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る	<input type="checkbox"/>				
③多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する	<input type="checkbox"/>				
コメント:印象に残るエピソードなど(※)レベルが1の場合は必ず記入をお願いします。					

**奈良県立医科大学附属病院歯科医師卒後臨床研修プログラム  
指導歯科医評価票A.看護師評価票.歯科衛生士・歯科技工士評価票 評価基準**

B. 資質・能力				
1. 医学・医療における倫理性	1	2	3	4
①人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する	<p>■医学・医療の歴史的な流れ、臨床倫理や生と死に係る倫理的問題、各種倫理に関する規範を概説できる。</p> <p>■患者の基本的権利、自己決定権の意義、患者の価値観、インフォームドコンセントとインフォームドアセントなどの意義と必要性を説明できる。</p> <p>■患者のプライバシーに配慮し、守秘義務の重要性を理解した上で適切な取り扱いができる。</p>	□人間の尊厳と生命の不可侵性に関して尊重の念を示す。	□人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。	□モデルとなる行動を他者に示す。
②患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす		□患者のプライバシーに最低限配慮し、守秘義務を果たす。	□患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。	□モデルとなる行動を他者に示す。
③倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する		□倫理的ジレンマの存在を認識する。	□倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。	□倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づいて多面的に判断し、対応する。
④利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する		□利益相反の存在を認識する。	□利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。	□モデルとなる行動を他者に示す。
⑤診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める		□診療、研究、教育に必要な透明性を確保し、不正行為の防止を認識する。	□診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。	□モデルとなる行動を他者に示す。
2. 歯科医療の質と安全管理	1	2	3	4
①医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める	<p>■医療事故の防止において個人の注意、組織的なリスク管理の重要性を説明できる。</p> <p>■医療現場における報告・連絡・相談の重要性、医療文書の改ざんの違法性を説明できる。</p> <p>■医療安全管理体制の在り方、医療関連感染症の原因と防止に関して概説できる。</p> <p>■歯科診療の特性を踏まえた院内感染対策について概説できる。</p>	□医療の質と患者安全の重要性を理解する。	□医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。	□医療の質と患者安全について、日常的に認識・評価し、改善を提言する。
②日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する		□日常業務において、適切な頻度で報告、連絡、相談ができる。	□日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。	□報告・連絡・相談を实践するとともに、報告・連絡・相談に対応する。
③医療事故等の予防と事後の対応を行う		□一般的な医療事故等の予防と事後対応の必要性を理解する。	□医療事故等の予防と事後の対応を行う。	□非典型的な医療事故等を個別に分析し、予防と事後対応を行う。
④歯科診療の特性を踏まえた院内感染対策について理解し、実践する		□歯科診療の特性を踏まえた院内感染対策の必要性を理解する。	□歯科診療の特性を踏まえた一般的な院内感染対策を行う。	□歯科診療の特性を踏まえた非典型的な院内感染を個別に分析し、予防と事後対応を行う。
⑤医療従事者の健康管理(予防接種や針刺し事故への対応を含む。)を理解し、自らの健康管理に努める		□医療従事者の健康管理と自らの健康管理の必要性を理解する。	□医療従事者の健康管理(予防接種や針刺し事故への対応を含む。)を理解し、自らの健康管理に努める。	□自らの健康管理、他の医療従事者の健康管理に努める。
3. 医学知識と問題対応能力	1	2	3	4
①頻度の高い疾患について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う	<p>■必要な課題を発見し、重要性・必要性に照らし、順位付けをし、解決にあたり、他の学習者や教員と協力してより良い具体的な方法を見出すことができる。適切な自己評価と改善のための方策を立てることができる。</p> <p>■ガイドラインなどの検索情報などを統合し、自らの考えを示すことができる。</p> <p>■高度な疾患に関して説明ができる。</p>	□頻度の高い疾患について、基本的な鑑別診断を挙げ、初期対応を計画する。	□頻度の高い疾患について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。	□主な疾患について、十分な鑑別診断と初期対応を行う。
②患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う		□基本的な情報を収集し、医学的知見に基づいて臨床決断を検討する。	□患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。	□患者に関する詳細な情報を収集し、最新の医学的知見と患者の意向や生活の質への配慮を統合した臨床決断を行う。
③保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する		□保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案する。	□保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。	□保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、患者背景、多職種連携も勘案して実行する。
④高度な専門医療を要する場合には適切に連携する		□基本的な疾患の最適な治療を安全に実施する。	□患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。	□複雑な疾患の最適な治療を患者の状態に合わせて安全に実施する。

4. 診療技能と患者ケア	1	2	3	4
①患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する	■必要な課題を発見し、重要性・必要性に照らし、順位付けをし、解決にあたり、他の学習者や教員と協力してより具体的な方法を見出すことができる。適切な自己評価と改善のための方策を立てることができる。	□頻度の高い疾患について、基本的な鑑別診断を挙げ、初期対応を計画する。	□頻度の高い疾患について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。	□主な疾患について、十分な鑑別診断と初期対応を行う。
②診察・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する	■ガイドラインなどの検索情報などを統合し、自らの考えを示すことができる。	□基本的な情報を収集し、医学的知見に基づいて臨床決断を検討する。	□患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。	□患者に関する詳細な情報を収集し、最新の医学的知見と患者の意向や生活の質への配慮を統合した臨床決断を行う。
③患者の状態やライフステージに合わせた、最適な治療を安全に実施する	■高度な疾患に関して説明ができる。	□保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案する。	□保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。	□保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、患者背景、多職種連携も勘案して実行する。
④診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する		□基本的な疾患の最適な治療を安全に実施する。	□患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。	□複雑な疾患の最適な治療を患者の状態に合わせて安全に実施する。
5. コミュニケーション能力	1	2	3	4
①適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する	■コミュニケーションの方法と技能、及ぼす影響を概説できる。	□最低限の言葉遣い、態度、身だしなみで患者や家族に接する。	□適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。	□適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族の思いに合わせた態度で患者や家族に接する。
②患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する	■良好な人間関係を築くことができ、患者・家族に共感できる。	□患者や家族にとって必要最低限の情報を整理し、説明できる。	□患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。	□患者や家族にとって必要かつ十分な情報を適切に整理し、分かりやすい言葉で説明し、医学的判断を加味した上で患者の主体的な意思決定を支援する。
③患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する	■患者の要望への対処の仕方を説明できる。	□患者や家族の主要なニーズを把握する。	□患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。	□患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握し、統合する。
6. チーム医療の実践	1	2	3	4
①歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る	■チーム医療の意義および各職種の役割を説明できる。	□単純な事例において、歯科衛生士、歯科技工士と情報を共有し、連携を図る。	□歯科衛生士、歯科技工士と情報を共有し、連携を図る。	□複雑な事例において、歯科衛生士、歯科技工士と積極的に情報共有し、連携して最善のチーム医療を実践する。
②多職種が連携し、チーム医療を提供するにあたり、医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する	■チーム医療における情報の共有方法について説明できる。	□単純な事例において、歯科医療を提供する組織やチームの目的、チーム医療における各構成員の役割を理解する。	□歯科医療を提供する組織やチームの目的、チーム医療における各構成員の役割を理解する。	□複雑な事例において、歯科医療を提供する組織やチームの目的、チーム医療における各構成員の役割を理解したうえで実践する。
③医療チームにおいて各構成員と情報を共有し、連携を図る	■チーム医療における歯科医師の役割を説明できる。	□単純な事例において、チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。	□チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。	□チームの各構成員と情報を積極的に共有し、連携して最善のチーム医療を実践する。
7. 社会における歯科医療の実践	1	2	3	4
①健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する		□健康保険を含む保健医療に関する法規・制度を理解する。	□健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。	□健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解し、実臨床に適用する。
②地域の健康問題やニーズ把握など公衆衛生活動を理解する	■離島・へき地を含む地域社会における医療の状況、医師偏在の現状を概説できる。	□地域の健康問題やニーズを把握する重要性を理解する。	□地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。	□地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案・実行する。
③予防医療・保健・健康増進に努める	■医療計画及び地域医療構想、地域包括ケア、地域保健などを説明できる。	□予防医療・保健・健康増進の必要性を理解する。	□予防医療・保健・健康増進に努める。	□予防医療・保健・健康増進について具体的な改善案などを提示する。
④地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する	■災害医療を説明できる。	□地域包括ケアシステムを理解する。	□地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。	□地域包括ケアシステムを理解し、その推進に積極的に参画する。
⑤災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する	■地域医療に積極的に参加・貢献する。	□災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要が起こりうることを理解する。	□災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。	□災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要を想定し、組織的な対応を主導する実際に対応する。

8. 科学的探究心	1	2	3	4
①医療上の疑問点に対応する能力を身に付ける	<p>■研究は医学・医療の発展や患者の利益の増進のために行われることを説明できる。</p> <p>■生命科学の講義、実習、患者や疾患の分析から得られた情報や知識を基に疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる。</p>	□医療上の疑問点を認識する。	□医療上の疑問点を研究課題に変換する。	□医療上の疑問点を研究課題に変換し、研究計画を立案する。
②科学的探究方法を理解し、活用する		□科学的研究方法を理解する。	□科学的研究方法を理解し、活用する。	□科学的研究方法を目的に合わせて活用実践する。
③臨床研究や治験の意義を理解する		□臨床研究や治験の意義を理解する。	□臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。	□臨床研究や治験の意義を理解し、実臨床で協力・実施する。
9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢	1	2	3	4
①急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める	<p>■生涯学習の重要性を説明でき、継続的学習に必要な情報を収集できる。</p>	□急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収の必要性を認識する。	□急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。	□急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収のために、常に自己省察し、自己研鑽のために努力する。
②同僚、後輩、歯科医師以外の医療職と互いに教え、学びあう		□同僚、後輩、医師以外の医療職から学ぶ姿勢を維持する。	□同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。	□同僚、後輩、医師以外の医療職と共に研鑽しながら、後進を育成する。
③国内外の政策や医学及び医療の最新動向(薬剤耐性菌等を含む。)を把握する		□国内外の政策や医学及び医療の最新動向(薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。)の重要性を認識する。	□国内外の政策や医学及び医療の最新動向(薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。)を把握する。	□国内外の政策や医学及び医療の最新動向(薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。)を把握し、実臨床に活用する。
C. 基本的診療業務				
2. 歯科医療に関連する連携と制度の理解等				
(1) 歯科専門職間の連携	1	2	3	4
①歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る	<p>■チーム医療の意義および各職種の役割を説明できる。</p> <p>■チーム医療における情報の共有方法について説明できる。</p> <p>■チーム医療における歯科医師の役割を説明できる。</p>	□単純な予防処置や口腔衛生管理事例において、歯科衛生士と情報を共有し、連携を図る。	□一般的な予防処置や口腔衛生管理事例において、歯科衛生士と情報を共有し、連携を図る。	□複雑な予防処置や口腔衛生管理事例において、歯科衛生士と情報を共有し、連携を図る。
②歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る		□単純な歯科技工指示書について、歯科技工士と情報を共有し、連携を図る。	□一般的な歯科技工指示書について、歯科技工士と情報を共有し、連携を図る。	□複雑な歯科技工指示書について、歯科技工士と情報を共有し、連携を図る。
③多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する		□単純な事例において、歯科医療を提供する組織やチームの目的、チーム医療における各構成員の役割を理解する。	□歯科医療を提供する組織やチームの目的、チーム医療における各構成員の役割を理解する。	□複雑な事例において、歯科医療を提供する組織やチームの目的、チーム医療における各構成員の役割を理解したうえで実践する。
(2) 多職種連携、地域医療	1	2	3	4
①地域包括ケアシステムについて理解し、説明する	<p>■地域包括ケアシステムの総論および同システムにおける歯科医療の役割について概説できる。</p>	□地域包括ケアシステムを理解する。	□地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。	□地域包括ケアシステムを理解し、その推進に積極的に参画する。
②地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する		□地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を理解する。	□地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を理解し、その推進に貢献する。	□地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を理解し、その推進に積極的に参画する。
(3) 地域保健	1	2	3	4
①地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する	<p>■地域の保健・福祉の関係機関、関係職種について概説できる。</p> <p>■保健所等における地域歯科保健活動について概説できる。</p>	□地域の保健・福祉の関係機関、関係職種について、指導医に論理的な質問ができる。	□地域の保健・福祉の関係機関、関係職種について、指導医と議論ができる。	□地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、積極的な交流を図る。
②保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する		□保健所等における地域歯科保健活動について、指導医に論理的な質問ができる。	□保健所等における地域歯科保健活動について、指導医と議論ができる。	□保健所等における地域歯科保健活動を理解し、積極的に参画する。

(4) 歯科医療提供に関連する制度の理解	1	2	3	4
① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する	<p>■ 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを概説できる。</p>	<p>□ 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みについて、指導医に論理的な質問ができる。</p>	<p>□ 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みについて、指導医と議論ができる。</p>	<p>□ 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、積極的に提言できる。</p>
② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する	<p>■ 医療保険制度を概説できる。</p> <p>■ 介護保険制度を概説できる</p>	<p>□ 指導医の指導のもとで、日常診療において、医療保険制度に則った適切な保険診療が実施できる。</p>	<p>□ 日常診療において、医療保険制度に則った適切な保険診療が実施できる。</p>	<p>□ 同僚に対し医療保険制度を説明し、適切な保険診療について指導できる。</p>
③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する		<p>□ 介護保険制度の目的と仕組みについて、指導医に論理的な質問ができる。</p>	<p>□ 関係専門職に対し、介護保険制度の目的と仕組みについて、関係専門職と議論ができる。</p>	<p>□ 同僚に対し介護保険制度の目的と仕組みを説明し、指導できる。</p>

奈良県立医科大学附属病院歯科医師卒後臨床研修プログラム 指導歯科医評価票B

到達目標	研修内容	必要な症例数	症例数の数え方
C. 基本的診療業務			
1. 基本的診療能力等			
(1) 基本的診察・検査・診断・診療計画			
①患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する	問診	30	1日の各患者ごとに、診療に関する業務を経験した場合に、1症例として数える(見学を含む)
②全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する	診察		
③診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する	検査		
④病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う	治療計画・実践		
⑤診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する			
⑥必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する			
(2) 基本的臨床技能等			
①歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する	口腔保健指導、スケーリング	20	1日の各患者ごとに、診療に関する業務を経験した場合に、1症例として数える(見学を含む)
②一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する a.歯の硬組織疾患 b.歯髄疾患 c.歯周病 d.口腔外科疾患 e.歯質と歯の欠損 f.口腔機能の発達不全、口腔機能の低下	aう蝕のコンポジットレジン修復、インレー修復 4例、b抜髄、感染根管治療 4例、C歯周基本治療 8例、d普通拔牙、埋伏歯拔牙 10例、e義歯製作、ブリッジ製作 2例、f小児の口腔機能発達不全治療、高齢者の嚥下機能訓練 2例	30	
③基本的な応急処置を実践する	同左	3	
④歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する	同左	20	
⑤診察に関する記録や文書(診療録、処方せん、歯科技工指示書等)を作成する	同左	20	
⑥医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する	同左	5	
(3) 患者管理			
①歯科診療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する	同左	20	1日の各患者ごとに、診療に関する業務を経験した場合に、1症例として数える(見学を含む)
②患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する	同左	10	
③全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う	同左	30	
④歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する	同左	1	
⑤入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する	病棟カンファレンス・症例検討会	5	参加した場合を1症例として数える。
(4) 患者の状態に応じた歯科医療の提供			
①妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する	同左	10	1日の各患者ごとに、診療に関する業務を経験した場合に、1症例として数える(見学を含む)
②各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する	同左	10	

到達目標	研修内容	必要な症例数	症例数の数え方
2. 歯科医療に関連する連携と制度の理解等			
(2)多職種連携、地域医療			
③がん患者等の周術期等口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する	他職種とのカンファレンス・研修会	5	参加した場合を1症例として数える。
④歯科専門職が関与する多職種チーム(例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等)について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する	他職種とのカンファレンス・研修会	5	

奈良県立医科大学附属病院歯科医師卒後臨床研修プログラム 指導歯科医評価票B 評価基準

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
<b>C. 基本的診療業務</b>					
<b>1. 基本的診療能力等</b>					
<b>(1) 基本的診察・検査・診断・診療計画</b>					
①患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する	問診	30	指導歯科医・上級歯科医の指導の下、問診を行う。	1日の各患者ごとに、診療に関する業務を経験した場合に、1症例として数える(見学を含む)	必要な症例数を経験していること。
②全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する	診察				
③診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する	検査				
④病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う	治療計画・実践				
⑤診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する					
⑥必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する					
<b>(2) 基本的臨床技能等</b>					
①歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する	口腔保健指導、スクレーピング	20	指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う。	1日の各患者ごとに、診療に関する業務を経験した場合に、1症例として数える(見学を含む)	必要な症例数を経験していること。
②一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する a.歯の硬組織疾患 b.歯髄疾患 c.歯周病 d.口腔外科疾患 e.歯質と歯の欠損 f.口腔機能の発達不全、口腔機能の低下	aう蝕のコンポジットレジン修復、インレー修復 4例、b抜髄、感染根管治療 4例、c歯周基本治療 8例、d普通拔牙、埋伏歯拔牙 10例、e義歯製作、ブリッジ製作 2例、f小児の口腔機能発達不全治療、高齢者の嚥下機	30			
③基本的な応急処置を実践する	同左	3			
④歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する	同左	20			
⑤診察に関する記録や文書(診療録、処方せん、歯科技工指示書等)を作成する	同左	20			
⑥医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する	同左	5			
<b>(3) 患者管理</b>					
①歯科診療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する	同左	20	指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う。	1日の各患者ごとに、診療に関する業務を経験した場合に、1症例として数える(見学を含む)	必要な症例数を経験していること。
②患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する	同左	10			
③全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う	同左	30			
④歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する	同左	1			
⑤入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する	病棟カンファレンス・症例検討会	5	カンファレンス等に参加し、指導歯科医・上級歯科医とディスカッションを行う	参加した場合を1症例として数える。	
<b>(4) 患者の状態に応じた歯科医療の提供</b>					
①妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する	同左	10	指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う。	1日の各患者ごとに、診療に関する業務を経験した場合に、1症例として数える(見学を含む)	必要な症例数を経験していること。
②各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する	同左	10			

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
2. 歯科医療に関連する連携と制度の理解等					
(2) 多職種連携、地域医療					
③がん患者等の周術期等口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する	他職種とのカンファレンス・研修会	5	他職種が参加するカンファレンスおよび研修会等に参加し、他職種とディスカッションを行う。	参加した場合を1症例として数える。	必要な症例数を経験していること。
④歯科専門職が関与する多職種チーム(例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等)について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する	他職種とのカンファレンス・研修会	5	他職種が参加するカンファレンスおよび研修会等に参加し、他職種とディスカッションを行う。	参加した場合を1症例として数える。	必要な症例数を経験していること。